

令和5年8月10日

練馬区シルバー人材センター

令和5年度 会員実態調査報告書

A 調査の概要

- (1) 調査対象 令和5年度定時総会の出席対象となる会員
- (2) 調査方法 調査用紙を定時総会開催通知の郵送と同封し郵送により回答する。
- (3) 調査票 別紙のとおり
- (4) 調査票発送日 令和5年6月1日
- (5) 発送数 3,389件
- (6) 回収数 1,838件
- (7) 回収率 54.2%

B 調査結果

1 会員としての就業状況

(1) 就業の有無

	回答数	割合
① 就業している	1,297	71%
② 就業していない	440	24%
③ 回答なし	101	5%

就業している会員の割合は71%で、これは令和4年度1年間の実績から算出した割合の71%と同じです。

就業していない会員の主な理由は、仕事が近所がない、ローテーションでない仕事を希望しているなどの「自分に合った仕事が見つからない」という会員が118件と続きます。また、病気や病後など「体調不良」が85件、「就職中」が65件と多くなっています。さらに、「就業を検討中」が24件、「多忙」が22件、「介護看護などの家庭の事情」が18件と続いています。自分に合った仕事が見つからないという会員が希望する仕事の幅を拓けるように就業相談を活用することが期待されます。

(2) 就業している会員の仕事量

	回答数	割合
① 多い	221	12%
② 丁度良い	186	10%
③ 少ない	247	13%
④ もう少し働きたい	313	17%
⑤ 回答なし	871	47%

丁度良いという選択肢がなかったにもかかわらず丁度良いと記入した回答があったため、集計においては丁度良いとして集計しました。313件の「もう少し働きたい」という会員の意向については事務局で共有して就業の紹介に努めます。

(3) 就業している会員の満足度

	回答数	割合 1	割合 2
① 満足	561	31%	44%
② 普通	687	37%	53%
③ 不満足	38	2%	3%
④ 回答なし	552	30%	

※ 割合 1 は、回答なしを含めた全体の中の割合

※ 割合 2 は、回答があった中の割合

就業の満足度については、普通が37%、満足を31%、回答なしが30%、不満足が2%でした。回答があったものの中での割合を見ると、97%は満足又は普通という満足度でした。

(4) 仕事量が多いと感じている会員の満足度

	回答数	割合
① 満足	103	47%
② 普通	100	45%
③ 不満足	10	5%
④ 回答なし	8	4%

(5) 仕事量が少ないと感じている会員の満足度

	回答数	割合
① 満足	58	23%
② 普通	164	66%
③ 不満足	15	6%
④ 回答なし	10	4%

仕事量の感じ方と就業の満足度の関係を比較しました。不満足と回答なしの割合はほぼ同じでした。満足と普通の割合の合計は、多いと感じている会員が92%、少ないと感じている会員が89%とほぼ変わりませんでした。仕事量が多いと感じている会員の満足の割合が少ないと感じている会員の割合よりも24ポイント高く、顕著な差が見られました。仕事量が多いと感じている方がより満足度が高い傾向が見られます。

2 自転車の利用状況

(1) 自転車利用の有無

	回答数	割合
① 自転車を利用している	1,185	64%
② 自転車を利用していない	566	31%
③ 回答なし	87	5%

自転車を利用していると回答した会員が64%(1,185人)おり自転車の安全利用に関する啓発は引き続き重要となります。一方、徒歩又は公共交通機関で就業場所へ行くであろう自転車を利用していない会員が31%(566人)おり、自宅から徒歩圏の就業機会の確保や交通費を支給される就業の確保に努めなければなりません。

(2) 自転車利用者の賠償保険への加入状況

	回答数	割合
① 賠償保険に加入している	907	77%
② 賠償保険に加入していない	215	18%
③ 回答なし	63	5%

自転車利用者の77%は賠償保険に加入しています。しかし、東京都の条例で自転車利用者の保険加入が義務となっていることを踏まえると、けっして高い割合とは言えません。引き続き加入促進を啓発します。

(3) ヘルメットの使用

	回答数	割合
① ヘルメットを使用している	251	21%
② ヘルメットを使用していない	893	75%
③ 回答なし	41	3%

自転車用ヘルメットを使用している会員は 21%、使用していない会員が 75%と、多くの会員はヘルメットを使用していません。ヘルメットの着用は努力義務であり着用していなくても違法性は問われませんが、事故の際に重症化を防ぐことができるとされており着用を推奨します。

(4) ヘルメットの購入補助制度の利用意向

	回答数	割合
① 購入補助制度を利用する	795	67%
② 購入補助制度を利用しない	199	17%
③ 回答なし	191	16%

自転車用ヘルメットの購入補助制度を利用すると回答した会員は 67%(795 人)、利用しないが 17%(199 人)、回答なしが 16%(191 人)でした。練馬区の自転車用ヘルメット購入費助成の制度を会員に紹介して利用を支援します。

(5) ヘルメットを使用していないと回答した会員のヘルメットの購入補助制度の利用意向

	回答数	割合
① 購入補助制度を利用する	674	77%
② 購入補助制度を利用しない	164	18%
③ 回答なし	55	5%

ヘルメットを使用していない 893 人の補助制度の利用意向は、購入補助制度を利用するという回答が全体よりも 10 ポイント多くなっています。しかし、利用しないという回答も 1 ポイント多くなっており、美的な観点から着用したくないという回答もあることからヘルメットの着用に対しては抵抗感が推測されます。

3 スマートフォンの利用状況

(1) スマートフォンの所有

	回答数	割合
① スマートフォンを持っている	1,470	80%
② スマートフォンを持っていない	276	15%
③ 回答なし	92	5%

回答者の80%はスマートフォンを持っていると回答しています。

(2) スマートフォンの使い方

	回答数	割合
① 電話	1,220	83%
② メール	1,058	72%
③ ネット閲覧	751	51%
④ LINE 等の SNS	841	57%

※割合はスマートフォンを持っている人に占める割合

スマートフォンを所有している会員のその使い方は、電話が83%、メールが72%と高くなっています。これらは携帯電話のときから使っていた機能でそのままスマートフォンでも使っていると推測されます。一方、スマートフォンに切り替えて新たに使えるようになるネット閲覧は51%、SNSは57%と新しい使い方にはなじんでいない様子が推測されます。

新たな機能も使えるようになり、より便利な生活を送るために、スマートフォンに関する個別相談などの機会を提供する必要があります。また、中期経営計画で挑戦することとした「DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進」のためにもスマートフォンの使い方を啓発する必要があります。

4 事務局だよりの読まれ方

	回答数	割合
① 毎号読む	1,363	74%
② 時々読む	257	14%
③ 読まない	23	1%
④ 回答なし	195	11%

事務局だよりを毎号読むと回答した会員が1,363人、74%あり引き続き主な情報伝達手段として有効性が見込まれます。一方、23人の読まないと回答した会員にどのような方法で情報を伝達するかが課題です。

5 インターネットの利用状況

(1) インターネットの利用の有無

	回答数	割合
① 利用している	760	41%
② 利用していない	775	42%
③ 回答なし	303	16%

インターネットを利用すると回答した会員は 41%でした。半数を超えておらずインターネットを主な情報伝達手段とすることはできません。しかし、80%の会員がスマートフォンを所有しており、この会員がスマートフォンをインターネットの利用に使用することでインターネットの利用割合を高くすることが期待されます。スマートフォンの使い方の支援を積極的に行いインターネットによる情報伝達の利便性を高めることが必要です。

(2) センターのホームページの閲覧の有無

	回答数	割合
① 閲覧したことがある	238	13%
② 閲覧したことがない	644	35%
③ 回答なし	956	52%

センターのホームページを閲覧したことがあると回答した会員は 13% (238 人) でした。閲覧者の感想はおおむね好評でした。しかし、インターネットを利用すると回答した会員が 41%いることから、ホームページの閲覧者数は増加の余地が大きいと見込みます。センターのホームページの魅力を向上させるとともに、ホームページがスマートフォン用でも見やすくなっていることや閲覧の仕方を広報する必要があります。